平成30年11月22日

平成30年

第11回教育委員会定例会会議録

大田区　　教育委員会室

平成 30 年 11 月 22 日（木曜日）午後３時から

１　出席委員（６名）

小　黒　仁　史	教育長
三　留　利　夫　　委　員	教育長職務代理者
芳　賀　　　淳　　委　員	
弘　瀬　知江子　　委　員	
後　藤　貴美子　　委　員	
髙　橋　幸　子　　委　員	

２　出席職員（10 名）

教育総務部長	後　藤　　清
教育総務課長	森　岡　　剛
教育施設担当課長	石　井　信　一
副参事（教育政策担当）	北　村　　操
学務課長	杉　山　良　樹
指導課長(幼児教育センター所長兼務)	増　田　　亮
副参事	田　井　俊　行
学校職員担当課長	池　　　一　彦
教育センター所長	柿　本　伸　二
大田図書館長	中　平　美　雪

３　日程

日程第１　教育長の報告事項

日程第２　部課長の報告事項

~~~~~~

（午後３時00分開会）

○教育長

それでは、ただいまから、平成30年第11回教育委員会定例会を開催します。

本日は傍聴希望者がおります。

委員の皆様に傍聴許可を求めます。許可してよろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○教育長

傍聴を許可いたします。

（傍聴者入室）
~~~~~~

○教育長
　大田区教育委員会傍聴規則第７条により、傍聴人は、議場における言論に対して批評を加え、または拍手その他の方法により公然と可否を表明することは禁止されております。ご協力をよろしくお願いいたします。
　それでは、これより審議に入ります。本日の出席委員数は定足数を満たしておりますので、会議は成立しております。
　まず、会議録署名委員に三留委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。
　続いて、本日の日程第１について、事務局職員の説明を求めます。

○事務局職員
　日程第１は、「教育長の報告事項」でございます。

○教育長
　それでは、私から３点ほど報告をさせていただきます。
　まず、１点目は、学校の周年行事についてです。前回の教育委員会定例会後、道塚小学校の 80 周年、田園中学校の 70 周年、東調布第一小学校の 140 周年、池雪小学校の 140 周年、池上小学校の 140 周年、池上第二小学校の 90 周年の６校の周年行事に行ってまいりました。
　いずれも、長い歴史を誇る学校で、立派な式典、祝賀会が地域の方々、保護者、学校の協力のもと執り行われておりました。
　これらの歴史ある学校の周年行事に参加させていただくと、改めて、学校は地域の方々の子どもの教育に対する熱意に支えられて、着実に発展してきたということを実感いたしました。
　140 周年を迎える学校が三つほどありました。現在、明治８年にできた学校が大田区の中では３校ほどありまして、それが一番古い学校なのですけれども、その次が、この明治 11 の 140 周年の学校になるかと思います。
　いずれの学校も、教室は三つほど、教員も多くて２、３名です。校舎はお寺を借りたり、茅葺のものを利用して始まったというところがございます。140 周年とは、本当に長い時間なのですけれども、少しずつ子どもの数が増えて、今の学校制度が整うまでになったのかなと思います。そこには、地域の方々の尽力や教職員の努力を強く感じるところです。
　また、地域の風土や文化が、学校の特色、学校のよさに、現在も脈々と生きているなと思いました。
　道塚小学校の 80 周年では、学校ボランティア活動が非常に盛んで、様々な地域の活動とともに子どもたちを育てているのかということが、式典の雰囲気からもよく出ておりました。
　田園調布中学校 70 周年では、国会議員の方も数名いらしていました。また、元校長先生もたくさんいらしていて、お話を伺ったのですけれども、本校は非常に生徒が落ちついていて、穏やかで、素直だというようなことを言っておりました。そのような姿が、各学年の歌声であるとか、子どもたちの言葉に出ていたのかなというふうに思っております。
　それから、東調布第一小学校は、140 周年で非常に古い学校ですが、私が一番印象に残

ったのは、記念誌に学校の歴史のページが 26 ページにわたっており、学校の歴史が豊富な写真資料とともにわかりやすく掲載されていたことでした。そういう資料をとりためて冊子をつくるというところに、学校の伝統といいますか、歴史の重みというのを感じたところでございます。それを読むと、子どもたちも、学校の歴史についてすごく勉強になるのではないかと思いました。

池雪小学校につきましては、140 周年なのですけれども、祝賀会のほうに参加させていただきました。池雪小学校も 20 年ほど前から英語活動を行うなど、非常に先進的に教育に取り組んでいた歴史がございますので、そういう歴史や学校の気風といいますか、そういうものが強く残っているなと思いました。

池上小学校も、140 周年で非常に古いところですが、池上本門寺がすぐ隣にございますし、初めの学校もお寺をお借りしたり、校舎がなくなってしまったときには、本堂や庫裏を利用していたことなど、寺院と非常につながりが強い歴史を持っていました。

池上第二小学校も、地域の方々の学校に対する熱い思いが詰まっている式典でございました。たくさんの来賓いらして、その方たちを子どもたちに丁寧に紹介している様子や子どもたちがしっかりと顔を見て挨拶をする様子などからも、地域とのつながりを感じたところでございます。

周年行事は、これからさらに 10 年、20 年、30 年と学校の歴史がつながっていきます。今までの開校以来の歴史の積み重ねと、これからどういう歴史を積み重ねていくかということです。教育委員会は、各学校の状況を踏まえた全体的な教育を進めていき、特に地域や家庭との連携、社会に開かれた教育課程というところを充実する必要があると思いました。

二点目の報告は、研究発表会です。大田区教育委員会の指定を受けた研究発表会等が行われました。

まず、大森第十中学校においては、順々にわかっていくわかり方や初めに全体を把握して一つずつ根拠を求めていくようなわかり方などといった、生徒のわかり方や思考の傾向に基づいた授業づくりの研究が行われていました。この中学校で感心したのは、ほとんどの授業でグループ活動を中心にした課題解決的、探究的な話し合い活動を中心としたものが行われていたことでした。一斉授業では、話を聞くということが中心となる授業が多い中で、主体的、対話的で深い学びが期待できるということで、授業改善が中学校でも確実に行われてきているという実践を見せていただきました。

それから、洗足池小学校は英語活動でございます。１年生から６年生まで、英語活動をしていました。私は、英語でしゃべる、意思を伝えるとなると、若干戸惑いを感じるところですが、どの学年の子どもたちも自然に英語で異年齢の友達や、ＡＬＴ（外国語指導助手）とも会話をしている姿を見ました。この子どもたちは、将来外国の方と英語でコミュニケーションを図っていくだろう姿が想像され、これからの未来をつくる、未来を生きていく子どもたちに対する英語活動の大切さを感じました。

赤松小学校は、ＥＳＤ教育に、持続可能な社会づくりのための資質・能力というのはどういうものなのかということを明確にして、取り組んでおりました。モルモットの心臓の音を聞いて、それぞれ心臓の音にも個性があることを知る。命に関わる問題であるとか、小さいときからこれからの社会で求められる資質・能力に視点を当て磨いていく教育で、

新たな意気込みというのですか、これからの学校教育を開いていく研究内容であると感心しました。

多摩川小学校では算数の研究で、研究テーマが「わかった、わかった、わかった」というテーマです。初めのわかったというのは、見通しを持つのわかった。二つ目のわかったは、問題の解き方がわかった。三つ目のわかったは、今度それを使って、何かいろいろなことに応用して、その本質的な仕組みがわかったというような理解の課程を大切にした算数の研究に関する取り組みでした。この学校で非常に感じたことは、教育機器です。電子黒板などの教育機材を本当に有効的に、視覚的にも工夫して使っていました。

それと同時に、大田区が力を入れている習熟度別学習というのが非常に工夫されていて、教育的な環境と、先生たちの努力といいますか、丁寧に一人一人関わる。それが合いまったときに、本当に教育効果が高まるのだなというがわかったところでございます。

それから、昨日の相生小学校では、社会科・生活科の研究でした。誰でもできる社会科ということで、わかりやすい社会科の指導法について研究しておりました。非常に若い先生たちがいる中で、基本な学習の手立て、学習課程というのを相生スタイルと言うのですけれども、自分たちのスタイルを確立しているというところで、狙いが明確でしっかりと構成された授業の取り組みがすばらしいと思いました。

それから、報告の３点目は、本日、先ほど行ってまいりましたモロッコ王女の大森第六中学校への訪問です。大森第六中学校が行っているＥＳＤ教育、本年度研究発表会もありましたけれども、その取り組みが非常に認められております。モロッコの王女様も、非常にＥＳＤや環境教育に興味があって、日本の環境教育をぜひ見たいということで、大森第六中学校に指定がございました。

モロッコの方もたくさんいらっしゃっていました。それから、モロッコの文科省、そういう担当の人も来て、見学がありました。

大変充実した取り組みであると思いました。ここ 10 年間、洗足池のホタルの育成であるとか、応援隊という自分たちの組織をつくって、いろいろなボランティアで花を植えたりなどの環境教育。それから、平和教育についての取り組みであるとか、非常に 10 年間の研究というのですか、様々に開発をしてきたこの取り組みを、非常にわかりやすく表現されていて、すばらしかったと思います。王女様も非常に感心しておりました。

子どもたちが、自信を持って自分たちの実践を国際的に発信していくというのですか、子どもたちの表現、それから培われた力のすばらしさ、やはり中学生もものすごい能力を持っているのだなと。それを全体的に引き出していく先生たちの教育力のすばらしさというのを感じていたところでございます。

多くの学校が、自分たちの教育を自信を持って発信できるような取り組みを、さらに進めていきたいなと感じました。

式典及び研究発表、それから、本日の環境教育で大森第六中学校への訪問について報告でございました。

私からは以上でございます。

ご意見、ご質問等がございますでしょうか。また、委員の方々も、それぞれ学校等を訪問されておりますので、そのご感想も含めてご意見をいただければと思います。

○芳賀委員

10 月 19 日の洗足池小学校の研究発表会のことについてお話しします。

テーマは、「外国語に親しみ、進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成、主体的、対話的で深い学びの実現に向けて」というものでした。

授業では、子ども同士で、東京オリンピックの観戦計画を立てようとか、あるいは、海外旅行フェアでお勧めの国を紹介しようという場面を設定して、英語でコミュニケーションを図る目的や場面、状況を明確にして、伝え合う必要性を感じさせて、英語で語り合いましょうというものでした。

授業の後の直山木綿子先生の講演では、台本を見ながら、台本を暗記しながら、「Ｈｏｗ　ａｒｅ　ｙｏｕ」「Ｆｉｎｅ　ｔｈａｎｋ　ｙｏｕ」という練習では意味がない。子どもたちが、その場で自分の気持ちを英語で表現していた実例を取り上げて、先生方は、その芽を摘むことなく、そのやりたいというモチベーションを生かすべきだと、そういうお話をされていました。

これを拝見して、二つ思い出したり、考えたりしたことがありました。

一つは、ニカラグア手話というものです。これは、世界で一番新しい言語と言われています。ニカラグアというのは、中央アメリカの国です。手話というのは、ろう者の方がお使いになる、手と指を使う言語のことです。

1979 年に、ニカラグアで革命が起きました。それまでは、ろうの方というのは各家庭にそのままに放っておかれて、全然教育も受けていなかったわけです。それで、革命後の新政府は、ろうの子供たちを全国から何百人も集めてきて、学校をつくりました。寄宿舎つきの学校。ところが、その新政府は、ろう者にどういう教育をしていいかよくわからなかったのです。何を教えるべきか、どう教えるべきか。どうするのか戸惑っていたのです。

そこで奇跡が起きるわけです。子どもたちは、各家庭にいたときも、例えば「おなかがすいた」ということを簡単なジェスチャーで家族に伝えていました。各家庭が違うジェスチャーだったわけですけれども、子どもたちが何百人も集まって、子どもたち同士が、とにかくそういうジェスチャーで意思を伝え合うわけなのです。それが積み重なっていくうちに、あるジェスチャーが一つの単語を構成することになる。あるいは、その単語を組み合わせてしゃべるときにも、だんだんルールができてくるということが子どもたちの間で自然に起き始めてしまったのです。それを見て、新政府はびっくりしました。これは何が起きているのかと。ということで、大急ぎでアメリカからわざわざ学者を呼んで、その学者が、まさにその子どもたちのしゃべるシーンを見て、観察し、記録したわけです。最終的には、約 1,600 の単語ができて、かなり複雑なことも伝えられる言語ができ上がっていくわけです。言語の形成過程の記録が残っている唯一の言語と言われていますし、今現在ある一番新しい言語と呼ばれているわけなのです。

突然何も意思が通じないところに連れてこられた子どもたちにとっては、コミュニケーションというのは、もちろんコミュニケーションをとりたいという意思もあるでしょうし、場合によっては、子どもたち同士の生き残りにも関わる重大な局面だったわけです。そのときにコミュニケーションをどうしても取らなくてはいけないというエネルギーは、最終的には、新しい言語をつくるところまで行ってしまうわけです。

今回の研究発表は、そういうコミュニケーションしたいという子どもたちのモチベーシ

ョンのエネルギーを生かすところなのですけれども、それはとても大きな可能性を秘めているものなのだなと思います。

二つ目は、では、そのモチベーションが出てくるような場面の設定についてです。

洗足池小学校では、先日の研究会のように、子ども同士で話したり、あるいは、留学生の大学生を小学校に招いて交流会をするようなことで、英語を使う場面をつくっていました。それはそれで、もちろん有意義で、お続けになるといいと思うのですけれども、もう少し本気で子どもたちがしゃべる場面を設定できないかなと考えました。

現実に学校でやるとなると、英語ではないほかの科目の授業を英語でできないかということなのだと思います。私が考えるところでは、体育は可能性があるのではないかと思っています。例えば、ソフトボール、サッカー、バスケットボールというアメリカやイギリスで誕生した種目は相性がいいと思います。もともと競技の用語として英語はそのまま残っていますから。

アメリカの野球場では、「打て」と応援するときには「Ｗｅ　ｎｅｅｄ　ａ　ｈｉｔ」、「三振をとれ」と応援するときには「Ｓｔｒｉｋｅ　ｈｉｍ　ｏｕｔ」と言うそうです。子どもたちも、勝ちたい、応援したいという気持ちは普通に出てきますから、自然にそういう用語や何かで応援したい、あるいは、こういう言葉を、自分たちは体育のその場面で使いたいのだけれども、どう言えばいいのだろうという発想が浮かんでくるのではないのかなと、そういうふうに思います。

今のは一例ですけれども、いろいろ、工夫やアイデアが浮かぶ非常にいい試みだと思います。大変勉強になりました。

以上です。

○後藤委員

後藤です。私からは、四つほど報告をさせていただきます。

まず一つ目は、適応指導教室つばさの池上教室を視察させていただきました。子どもたちの現実に活動している様子を拝見させていただきまして、私が想像していた姿よりも非常にのびのびとした姿で、それぞれ個を大事にしていただいているなというような印象がありました。

適応指導ですので、個人個人の持つ、子どもたち一人ずつが持つ個を大切にしていただける場というのが教室としてあるということが、大変いい試みだなというふうに感心して、とても感謝して帰ってきた１日でありました。

子どもたちが、それぞれこれからの未来というところでは、それぞれの方向性に導かれながら、学校に通ったり、それぞれの方向に導いていけるような手だてができるといいなというふうに思っております。

二つ目は研究発表会ですが、４校行かせていただきました。赤松小学校、多摩川小学校、大森第六中学校、四つ目が小中一貫教育の会というところで、一つの小学校に、学区域内の小学校と中学校の先生方がお集まりいただいて、１時間の研究授業を参観して、その後に分科会ということで、先生方で研究を深めていくという会でした。

どの学校も総合して感じたことは、電子黒板等をやはり非常に多く使っていただいているなというふうに思いました。各学級で、本当に先生方が工夫されて使っているというと

ころにとても感心したところではあるのですが、算数で使う使い方と国語で使う使い方、また、家庭科で使う使い方というように、家庭科では、家庭科室には配置はされておりませんので、普通の教室で家庭科の授業をするという点で、電子黒板を使用しておられました。子どもたちは一人ずつタブレットを持って、その日の授業は、バランスのよい１日の献立づくりという授業だったのですけれども、どういうふうに子どもたちが実際に使っているのかなと、よく参観してきたのですが、大変細かいところまで、やはり子どもたちはすぐに取り込みができるという能力がすごくあるなというところで、献立を立てるという、いわゆる献立表という表づくりというようなところまでできている次第でした。先生は電子黒板で、ヒントになるようなこととか、答えになるようなことは一切触れずに、バランスのよい食事ってどういうことかなというところから、電子黒板でいろいろな食べ物の絵や図の画像を示して、子どもたちに、食育も含まれているような形で授業を行っておりましたので、非常に先生もそれぞれ研究されて、子どもたちに指導をしていただいているなという感想を持ちました。

また、社会のほうでは、やはり地図とか年表というところで多く電子黒板を使っていました。それも、教科書とか黒板で見るよりも、やはり子どもたちは視覚というところで、目から入る絵とか、図とか、柄というところで入るところから、とても年表なんかは、記憶というところで入りやすいという効果があるのではないかなというふうに感じました。

これからもどんどん、電子黒板は使い方で、今の子どもたちに適しているという点が多いかなというふうに思いますので、どんどん使っていただけたらいいなというふうに思っております。

三つ目は、周年行事です。私は、田園調布中学校の 70 周年に行かせていただきました。先ほど教育長からお話もありましたように、やはり土地柄とか、元校長先生方も、先生同士のきずなであったり、学校を思う愛校心であったりというのが、とても深く感じられた周年行事でありました。また、ＰＴＡのコーラスなどもありまして、お手伝いのお母様、また、力仕事のほうで力を発揮していただいているお父様の協力というのも、大変よく、とても影になる力ではあったのですけれども、よく見受けられた周年行事だったなというふうに思いました。

やはり歴史とともに学校があり続けるということは、先生方の努力、そして、地域の支える力というのが大きく反映しているなというふうに思った、とても温かい周年行事を行った学校という印象を持ちました。

四つ目は、大森第二中学校と志茂田中学校の文化祭のくくりで、合唱コンクールというのがアプリコの大ホールで行われました。こちらは、それぞれ合唱コンクールですので、各クラスが合唱に向けて、金賞、銀賞、銅賞とか、優勝とか、準優勝とかというふうに賞がつくので、そこに向けて一生懸命、日ごろから練習した成果を発揮するという場だったのですが、私がすごく印象に残ったことは、学校によって先生方の取り組み方が、やはりそれぞれだなという印象です。

大森第二中学校の先生方は、子どもたちがこんなに毎日毎日練習をして、朝練も放課後の練習もとても、頑張っているのだから、先生たちも何かやらなくてはということで、先生方も、発表があり、毎年子どもたちが楽しみにしている発表だというふうにお聞きして、ものすごく盛り上がって、子どもたちが本当に喜んで、先生とのきずなが深いのだなと思

った一面でありました。子どもたちが頑張っている姿を先生方が受けとめていただいて、また先生方も、子どもたちにこういう気持ちで先生たちも頑張るよというような表現を示してくださるというのは、なかなかふだんの授業の場では難しいかなという点では、そういった合唱コンクールなんかの場面で、舞台で、ステージでというところで、先生方の本当に子どもたちを引きつける力というのをお示しになったというのは、大変よい場面だったなというふうにお見受けいたしました。

志茂田中学校の合唱コンクールも、とても皆さんよく頑張って発表していました。とても真面目に取り組んでいる合唱コンクールといった雰囲気で、先生方は、子どもたちがざわめきというのですか、ちょっと声が上がると、注意をして、きちんと聞く態度を身につけるというような姿勢が見受けられた学校だなというふうに感じました。

総合的に子どもたちの様子というのが、やはりそういう文化祭であったり、研究発表会であったり、公開授業なんかでとてもよく見える場面が多いのですが、やはり見られているときにだけいい場面を見せるとか、聞かれているときにだけいい答えを出すといったことではなく、自然な子どもの姿というのが、毎日先生にも出せる、家庭でも出せるというような、そこで、例えば注意を受けるときは注意を受ける、指導をしていただくといった、自然な子どもの場面というのが、多く見受けられるような状況が育ってくるといいなというふうに思っております。

そういう点では、今回、私が見せていただいた学校は、どの学校も、先生と子どもたちのきずなをもとに、子どもの自然な姿が、非常によくあらわれていたなという印象を受けた学校でした。

また、今後も、子どもたちの成長とともに、自然な姿を見受けられるような教育現場、そして、先生方の努力が見えるような教育現場を目指していけたらいいなと思っております。

私からは以上です。

○髙橋委員

髙橋でございます。

私からは、初めてですが、３点ご報告いたします。

適応指導教室つばさ、池上教室に行ってまいりました。ここは、池上図書館の１階にあって、各部屋が効率よくまとまっていたような気がします。

この日は体験学習で、いつもは一人でいる子どもも、一緒になって全員参加し、芋のつるの収穫をしていました。ここは通っている人数がとても多いということで、やはり雰囲気がいいのかなと思いましたら、生徒から、ここでは素直さを育ててもらえるという話をしていたと聞いたのです。やはり先生たちが子どもたちに寄り添うように努力していらっしゃるのかなと思いました、ここにいて、もとの学校に戻れる子もいるということを聞いて、とても安心いたしました。

次は、研究発表会に４校行ってまいりました。

最初に行きましたのは洗足池小学校で、外国語の授業でした。最初に英語カフェというところに６年生が中心になって、身近な場所をクイズとかゲームで紹介していました。ほかの学年の子どもたちはシールをもらいながら、好きな場所を回りながら、英語で言えな

いなというときは、６年生がちょっとフォローをしてあげたり、ほほ笑ましい英語カフェでした。授業では、様々なテーマを対話形式で行っていました。ゲーム形式やクイズ形式でやっていたので、子どもたちはわかりやすいのかなと思ってみていました。

特別支援学級もあったのですが、そこも、カフェテリアごっこをしようというテーマで、欲しいものを探して渡すといった授業でした。さわれるものがあったほうがわかりやすいという先生の指導があったようで、子どもたちは集中してできていると感じました。一人だけ、ちょっと部屋の電気のスイッチをいたずらしている子もいましたが、何かほほ笑ましかったです。

講演で指導していただいた直山先生からは、リスナーがスピーカーを育てる、会話の中から言葉が増えていく、そして、指導している先生には伝えながら使えるようになる、授業の中で子どもとやりとりしながら英語力をつけるといいという指導がありました。私は、それを聞いて、無理に覚えなくてもいいということだなとほっといたしましました。

次に、赤松小学校ですが、ＥＳＤという単語が出てきまして、ＥＳＤとは何だろうということで、私はとても興味を持って参加したのですが、参加した先生方にも始めての方がいて安心しました。いろいろな科目を授業では行っていたのですけれども、それぞれ児童の考え方というものを引き出しているというように思いました。先生が無理やり答えを出すのではなくて、子どもたちがじっくり考える、そういうことだったと思います。それが将来的に、持続可能な社会づくりに向けた教育なのかなと、それはとてもいい教育法だと思っています。

それから、11 月２日は多摩川小学校で、習熟度別に算数の授業を「しっかり」「じっくり」「どんどん」というようにコースを分けてやっておりました。「解けそうだな」「なるほど、納得」「説明できる」と考える力を大事にしていました。講演の高井先生から、冒頭で私たちに問題を出していただいたのですが、なかなかかたい頭では解けなくって、柔軟な考え方をするということを教えられました。

子どもに考えさせる、どういうものの見方をするかが大事で、シミュレーションができる、人の考えを尊重できる、人を認め、大事にするなど指導がありました。とても子どもには、これから大事なことだなと思いました。

11 月 13 日は大森第六中学校ですが、赤松小学校でＥＳＤの教育研究発表会を見た後でしたので、とてもわかりやすい気がしました。小中一貫教育連携校ということで、小学校でやったことを中学に行ってレベルアップするという指導は、とても有意義な教育だなと思っています。

食品ロスについて毎日考える取り組みとして、玄関にＥＳＤキャラクターのぼらぴーの掲示板があって、毎日、子どもたちはそれを見て、今日は給食がどのくらい残ったかチェックしているようでした。

ここの学校は、ユネスコスクールとして、洗足池の清掃、樹木プレートの取りつけ、ホタルの飼育・放流、大岡山駅前の花壇整備などの環境教育がされていて、生徒の意識も高まっていると感じました。

どの学校も参加者がとても多くて、熱心ですばらしいものでした。私もとても勉強になりました。

最後に、11 月 10 日に、東調布第一小学校の開校 140 周年記念祝賀会に出席いたしまし

た。嶺町特別出張所の大集会室で開催し、地域の皆様が大勢集まって、くす玉開きで始まりました。ＰＴＡのコーラスでは、校歌が２曲あり、今うたっている校歌と旧校歌で、旧校歌は校歌詞がとても難しいのですけれども、曲がとてもいい曲でした。地域の方からは、その曲だけを残して、詞を今ふうにかえたほうがいいかなというような話もありましたが、今うたっている校歌もすてきなものでした。ここは、同窓会が長く続けられているようで、地域とのつながりが強い学校であるなと思いました。とても和やかで、いい雰囲気の祝賀会でした。

以上です。

○弘瀬委員

弘瀬でございます。

周年行事は、11 月 11 日に池上小学校の 140 周年の祝賀会に出席してまいりました。明治 11 年６月に東京府第二中学区 31 番池上小学校として、池上本門寺の境内に開校したそうです。池上小学校には、二代、三代で学んでいらした方も多くいらっしゃると伺いました。長い歴史の中で、本門寺を中心に地域が一体になって子どもたちの成長を見守ってきたのがよくわかりました。

もう一つは、10 月 19 日、洗足池小学校で行われました外国語の研究発表会でした。先ほど髙橋委員の中にもありましたように、英語カフェでは、自分たちのつくったポスターについて会話を楽しみながらやっているのがとても印象的でした。授業風景を見させて頂きましたが、どの学年もみんな、積極的に英語に取り組姿勢がすごくよかったなと思いました。

文科省の直山先生の話にもありましたように、子どもたちの英語力を何とか引っ張り出そうとしている先生たち、そして、それに応え、るために、何とか自分たちの思いを伝えようとしている子どもたちの、そのお互いの姿がまさに教育ではないだろうかというお話もありました。

大田区は羽田空港もあり、海外の方たちも行き来する場所ですので、できるだけ外国語に親しんで、進んでコミュニケーションを図って頂きたいと思います。これからの外国語教育に積極的に関わっていただき、ぜひその成果を出して頂きますように期待しています。

以上です。

○三留委員

三留でございます。

私も、周年行事とか研究発表会、幾つか参加させていただきました。感想を述べさせていただきたいと思います。

周年行事につきましては、道塚小学校と池上第二小学校の祝賀会に参加をいたしました。ＰＴＡの方々が、学校、地域と協働して、和やかな中に充実した会ができているなという印象を持ちました。どちらの会でも感じたことなのですけれども、学校が地域とともに歩んで、地域の支えのもとに発展した、そういうことが挨拶であるとか、懇談の中で感じました。学校の節目として、いい取り組みを行っていると思いました。

それから、研究発表会については、洗足池小学校、多摩川小学校、大森第六中学校、相

生小学校の発表会に参加をいたしました。今まで各委員から詳しくお話をしていただきましたので、私のほうからはごく簡単に、感想を述べさせていただきたいと思っております。

洗足池小学校は、お話があったように外国語の研究でした。「使える英語」、これを目指しているということ、がよくわかりました。このことはとても大事なことだと思います。そのために、主体的に取り組める「場所」だとか、「状況」を用意するなど、研究自体も進化してきているなという感じがしていて、大変参考になる発表ではなかったかなと思いました。

多摩川小学校は算数科の研究でした。習熟度別学習の全てのクラスの子に問題解決学習を充実していく、これが大きな趣旨だったと私は捉えています。そういう中で、子どもたちの達成感だとか、深い学び、こういったものをしっかり定着させていこうということをすごく感じた研究でした。

大森第六中学校は、先ほど何回も出ていますけれども、ユネスコスクールに加盟して、「ＥＳＤ」、持続可能な開発のための教育ですね、これを続けてきた学校でございます。研究をずっと積み重ねてきて、今回、ＳＤＧｓということで、国連で採択させた持続可能な開発目標に迫るために必要な資質能力を育成するために、先ほどいろいろお話がありましたけれども、様々な取り組みをしていこうとしていることが大変評価できるところではないかと私は思いました。

昨日の相生小学校は社会科の研究ということで、みんなができる生活科、社会科の授業づくりということを目指していました。相生スタイルという学習課程を作成して取り組んだわけですけれども、これによって、「どのクラスの子どもも課題意識を持って、主体的に取り組む授業改善を図ることができた」という発表があったのですが、その発表が大変印象に残りました。

今、どの学校でも移行期間ということで、新教育課程の準備を進めているところですけれども、今回の発表につきましては、先ほどいろいろな方からお話があったのですけれども、「主体的、対話的で深い学び」、「カリキュラム・マネジメント」というような、新しい学習指導要領のキーワードに関わる取り組みが進められてきました。それぞれの発表が、大田区内の各学校の今後の取り組みのために大いに参考になると思います。

また、発表を見て、充実した校内研究をするということは、所属教員のＯＪＴとしての研修の場になっているなということをすごく感じました。特に若手教員にとっては力量向上の機会になっているということは、確実です。ぜひ、どの学校も校内研究にしっかり取り組んで、教員育成につなげてもらいたいなと、そういうふうに感じました。

以上です。

○教育長

ありがとうございました。

ほかにご意見、今のところよろしいでしょうか。

それでは、次の日程に移りたいと思います。

日程第２について、事務局職員の説明を求めます。

○事務局職員
　日程第２は、「部課長の報告事項」でございます。

○教育長
　それでは、部課長の報告をお願いいたします。

○学務課長
　私からは、平成 31 年度新入学にかかわる指定校変更及び区域外就学についてご報告を申し上げます。例年、この時期に次年度の入学に関わるご報告をさせていただいているものでございます。
　まず初めに、大田区全体の新入学児童・生徒数に関して、簡単にご説明を申し上げます。近年、小中学校合わせて約 8,400 人から 8,500 人程度の新入学児童・生徒が入ってきている状況でありまして、これは微増の傾向にございます。また、平成 30 年度、今年度ですけれども、新入学時の指定校変更の申請につきましては、小・中合わせて 1,528 件、前年度が 1,575 件でしたので、近年は微減傾向が続いているというところでございます。施設規模等の関係から、特に小学校では、指定校変更による受け入れ困難な学校が最近は増加している傾向がございます。簡単ではございますが、最近の傾向でございます。
　これらを踏まえまして、本日お配りをしております報告の内容、平成 31 年度の指定校変更申請に関する基本的な対応についてご報告をさせていただきます。
　１番の基本的な考え方が五つほど書かれてございますが、簡単にポイントのみお伝えをさせていただければと思います。指定校変更は、当該校の施設規模に応じて、その範囲内で認め、区域外就学は許可をしないということを原則とさせていただいております。指定校変更の学校別の対応につきましては、今後の学級数の推移、施設規模の面から、幾つかの方向性を掲げているところでございます。
　１ページ目の２の表と３ページ目の３の中学校の表をご覧いただきながら、ご説明を簡単に申し上げたいと思います。
　まず一つ目ですけれども、通学区域内の児童しか受け入れられない学校、これは小学校だけですが、２番の表にもありますとおり、小学校では３校が、今回は該当しております。
　二つ目といたしましては、通学区域内の児童・生徒を受け入れた上で、余裕があれば指定校変更申請希望を受け入れる。あるいは、その受け入れる際にも人数の制限を設けている学校というものでございます。こちらは、２番の表、３番の表をご覧いただけるとわかりますけれども、小学校では 20 校、中学校では６校が対象となっており、これは本年の 30 年度に比べますと、小学校では１校の減少、中学校では増減なしの同じ６校という形になってございます。
　続きまして、参考までですけれども、平成 30 年度、今年度の指定校変更申請に関する結果について、簡単にご報告を申し上げます。まず小学校でございますが、抽せんを実施した学校は 10 校でございました。中学校につきましては、抽せんを実施した学校が、今年度は２校という形になってございます。
　平成 31 年度につきましては、新小学校１年生の 10 月１日現在の登録数が、30 年度と比べて 160 人ほど少なくなっておりますけれども、先ほど申し上げましたとおり、依然と

して制限をする学校の区域内の児童や生徒数には多いという傾向はございます。そういった関係から、抽せん実施となる学校は、平成 30 年度とほぼ変わらないだろうという見込みを立てているところでございます。

なお、一番最後のペーパーをご覧いただければと思います。あくまでも見込みでございますが、31 年度の新入学にかかわる指定校変更制限校の受け入れの見込みを、11 月現在として報告をさせていただいているところでございます。なお、これは小学校のみで、中学校の生徒は見込みを出しておりません。なぜかといいますと、中学校の場合は私立の入学に関する数字がございますので、かなり増減をする関係がございます関係で、小学校のみとさせていただいているところでございます。そちらをご覧いただければ、１番から２番の形で、これからの、いわゆる受け入れができなくなる可能性が高い小学校、それから、抽せんとなる可能性の高い小学校を指し示させていただいているところでございます。こちらが３ページ目になります。

今後のスケジュールですけれども、平成 30 年 12 月 7 日に、就学通知書をそれぞれの保護者宛てに発送させていただきます。それから、12 月 14 日から指定校変更の申請の受け付けを行い、１月 11 日の金曜日までの申請者に基づいて抽せんをするかどうかを、今後、学校ごとに判断をしてまいりたいというふうに思っております。

本日の資料を含めまして、おおた区報の 12 月 11 日号、並びに大田区のホームページでご案内を差し上げるところで、今準備を進めているところでございます。

私からは以上です。

〇学校職員担当課長

私からは、読書学習司書の配置についてご報告をさせていただきます。

これまで、学校図書館の管理・運営支援及び教員への学習支援など、児童・生徒や教員の図書館利活用の促進を図るために、平成 28 年から３か年計画で非常勤職員の読書学習司書を配置してまいりました。このたび、区内全小中学校 87 校の配置が完了いたしましたので、ご報告をさせていただきます。

お手元の資料をご覧いただければと思います。

順番が前後いたしますが、第２項をご覧いただければと存じます。これまでの配置状況となってございます。平成 28 年度より平成 29 年度の２か年度で、各年度それぞれ 30 校、小学校 20 校、中学校 10 校、合計 60 校に配置をいたしました。そして、今年度４月当初、配置計画は残りの 27 校ということになっておりましたが、既に３校で欠員が生じておりましたので、募集人員は 30 名ということになりました。ところが、これに対しましての応募者数ですが 19 名でありまして、選考の結果、このうち 14 名の方を採用し、新規 11 校、欠員校３校について、４月１日付で配置決定をいたしました。

次に、資料の第１項に戻っていただきまして、平成 30 年度におけます、その後の新規配置校の 16 校について、公募の第二次募集によりまして、年度内での早い時期の採用に努めてまいりました。その結果、８月１日付で採用者 13 名、そして、10 月１日付で３名の採用者を決定いたしまして、このたび、全小中学校 87 校の配置が完了いたしましたので、ご報告をさせていただきました。

なお、これまでの読書学習司書の業務及び活動の状況の調査を 10 月に実施し、整理を

進めているところであります。
　次回定例会におきまして、この結果の概要をご報告させていただきたいと思っております。
　私からは以上です。

○教育長
　ありがとうございます。
　それでは、ただいまの報告に、ご意見、ご質問はありますでしょうか。

○三留委員
　学校職員担当課長から、読書学習司書の配置について報告がありました。読書学習司書の配置については、児童の読解力向上であるとか、学習に役立つ学校図書館、という観点から大変重要だと私も考えておりまして、そういう意味で、区として積極的に配置するということは、とてもいいことだと考えております。
　仕事として、蔵書管理、貸し出し、環境整備、レファレンスというようなことをやるのだと思うのですけれども、司書の資格を持っている方がやられるということですので、例えばブックトークであるとかストーリーテリングだとか、様々な専門性を生かした活動を、学校教育のためにしてもらいたいと思いました。

○教育長
　よろしいでしょうか。ほかにございますか。
　それでは、これをもちまして、平成30年第11回教育委員会定例会を閉会といたします。
（午後３時56分閉会）